

中央教育審議会 初等中等教育分科会  
幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会  
—主な論点(案)—

1. 幼児期の学びの特性

- ・五感を通じた体験の重要性
- ・「遊び」を通じ総合的に学ぶことの重要性

2. 幼児教育の質を支える要素

- ・幼児の体験の幅を広げ、質を深めるための関わりや環境設定
- ・発達の段階に応じた関わりや環境の変化の工夫
- ・地域における幼児教育推進体制の充実
- ・家庭との連携 など

3. 幼児教育と小学校教育の接続期における教育の質の現状と課題

- ・接続期の教育の意義や重要性の共有
- ・要領や指針の理念の普及
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の実践への活用
- ・多様な施設における5歳児への関わりと、小学校における6歳児への関わりをつなぐ工夫（幼保小が連携した学びや生活の基盤づくりなど）

4. 一人一人の成長を支えるために配慮すべき事項

- ・配慮が必要な幼児を早期の支援につなぐための方策
- ・乳幼児期も含めた家庭教育を支援する方策
- ・データの蓄積・活用による支援策の改善